

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和6年度第8回戸田市外部評価委員会
開催日時	令和7年1月30日(木) 午前9時30分 ~ 午前10時20分
開催方法	501会議室
委員長等氏名	委員長 佐藤 徹 副委員長 長野 基
出席者氏名 (委員)	委員 青山 裕之 委員 溝上 西二 委員 宮崎 仁美 委員 忰田 康二 委員 古賀 麻明利
欠席者氏名 (委員)	無し
説明のため 出席した者	無し
事務局	吉野部長 清水次長 渡辺課長 石嶋主幹 北田副主幹 薄葉主事
議 題	令和6年度外部評価報告書(案)について
会議の経過 及び 会議結果	別紙のとおり
会議資料	次第 【資料】令和6年度外部評価報告書(案) 【巻末資料 資料1】答申書 【巻末資料 資料2】戸田市外部評価委員会委員名簿 【巻末資料 資料3】令和6年度戸田市外部評価委員会会議録

(会議の経過)

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
副委員長	<p>1 開 会</p> <p>(JR線の遅延により、会議途中まで副委員長が委員長の職務を代理)</p> <p>2 副委員長挨拶</p> <p>本日は、前回行った答申に対する市側の検討結果が行動計画という形でフィードバックされる。</p> <p>行動計画では市側に起こる変化が確認できるが、何らかの発見があれば、限られた時間ではあるが議論を行いたい。よろしく願います。</p>
副委員長	<p>3 議 事</p> <p>○令和6年度外部評価報告書(案)について</p> <p>資料に基づき、事務局が説明を行った。</p> <p>各施策の行動計画から事務局の説明においてピックアップがあった項目としては、</p> <ul style="list-style-type: none">施策1 部局横断性の視点施策10 民生委員不足の問題施策15 大規模災害・特殊災害に係る指標の設定施策21 区画整理等の事業の加速への取組施策27 CO2以外の指標の設定、緑化・緑地率等の設定施策32 地域の担い手不足解消に向け検討 <p>であった。</p> <p>その他にも行動計画として挙げられている項目があるが、意見や質問等はあるか。</p>
委員	<p>各テーマで自分なりの意見を申し上げてきたが、この資料を読み返して行政とは何かという概念の統一が出来ているか分からなかった。組織は分業であり、行政全般を分業的に担っていくのが各部署である。分業という意識を徹底しないと行政の中で意識が分散されて目的意識が曖昧になると感じる。</p>

	<p>各部署が担当する部分を明確にし、実現するという認識があれば、具体的な、事業の実施力も出てくると思う。</p> <p>消防等の専門分野は、分業が徹底されており、役割が明確だが、他は目標がほとんど定性的であり、分業の捉え方が徹底されていないからと考える。その上でこの資料を見ると、例えば「子育て支援の充実」では、「心理的、経済的な問題により、子どもを産み育てることへの不安を抱えている状況を解消し、戸田市で子育てする全ての家庭が、安心して楽しく子育てができることを実感できる環境を整備します。」というのが、行政トータルの目標だ。担当課は自らの役割を意識しつつ、目標を達成するために自分たちはこの分野の業務を遂行するといったところは、事務事業のテーマとして挙げてこないといけないと思うが、それが見えない。皆さんの意見はどうか。</p>
委員	<p>施策ごとの所管課の分業の方向性が見えてこないという意味合いか。どういった観点からその考えに至ったのかを考えながらうかがっていたが、総合振興計画の将来都市像や基本目標、個別の施策が存在しているところ、分業の中でもともとあった組織に総合振興計画の複合的な要素を当てはめたところで無理が生じ、各担当課が総合振興計画の都市像と目標を意識しながら事業を実施できているのかという点で疑義がおりなのだと思っ取った。</p>
	<p>将来都市像と基本目標、その中の施策の各所管課が実施している部分について、個別に回答があり、それは、将来都市像ひいては基本目標を達成するための内容であった。それに沿う沿わないも含め、今まで議論してきた。所管課が行政の果たす役割としてどこに向かっているか分からないという抽象的なニュアンスだと私もどう議論して良いのか分からない。</p> <p>少なくとも私は、総合振興計画のフレームワークや趣旨にのっとった施策があり、そこに適切な事務事業が設定されているかどうかという観点で、外部評価の枠にのっとった評価を行ってきたところであり、出した意見がある程度各部局に影響を及ぼしたと考えている。</p>
委員長	<p>行政組織は分業体制をとってきた。戸田市にかかわらず、一般的に行政組織は、縦割り組織の弊害を指摘されるように、専門化、分業化、細分化をしているが、総合計画の場合、総合行政が必要であり、縦割りではいけない。</p>

	<p>「事業」は予算要求も実施も所管課が明確であるのに対し、「施策」は、主管課と関係課の役割分担があいまいになりがちである。したがって、計画策定過程で施策の目指す姿、現状と課題、施策における成果の状態を測定するのに適切な評価指標等について所管課と関係課と一緒に熟議する必要がある。だが、そのように設定されてきたのか。策定後も進捗管理・評価の段階では、人事異動で担当職員の交代の際にうまく引き継がれなかったり、施策に関しては、事務事業と比較して、自分たちが担当しているという認識（オーナーシップ）がやや希薄なところがある。それらについては、外部評価委員会でも今年度に限らずこれまで指摘してきたところである。</p> <p>そこで総合振興計画のフルモデルチェンジに際し、新たにロジックモデルを導入した。そして、施策を自分たちがマネジメントしていくということや、少なくとも施策をマネジメントしていく組織上の職階としては担当係長ではなく管理職者（次長・課長）である、という位置づけになっている。改善すべき部分はまだまだあると思っており、いろいろ意見を頂戴したい。</p>
委員	<p>そういった観点で行くと、ロジックモデルシートが導入されて、どのように基本目標や、将来都市像に向かっていくかが浸透しきれていないと感じる。どうしても担当課のドライな感じが引っ掛かった。今まで長くやられている委員長と副委員長が感じられてきたことを同様に感じた。</p>
委員	<p>八潮市の道路の陥没の件もそうだが、公共の安全や社会の高機能化は個人が担うものでなく行政の責任だ。行政の力は社会インフラを維持担保していくために必要であり色々な努力がされないといけないのに、結局機能していなかったと感じている。</p> <p>要するに近代社会は分業で成り立っていると考えている。分業を担当するところは機能を果たさないとトータルでの機能を結果的に失ってしまう。その意識が徹底していれば指標の設定や事業の目標は明確にできると思う。</p>
事務局	<p>役割分担という部分で、市は行政組織規則の中で各課が何を所掌するか定めている。それを各事務事業の中で各課が取り組みつつも、施策の中では各課だけではできない部分もあり、部局同士の横の連携も取りつつ進めていく必要があると考えている。</p>

委員	<p>各課は、行政の基本概念を貫かなくてはいけない。それを徹底させるのは共創企画課の役割だ。徹底した分業意識が出てくると行政の本質に向かった事業が掘り起こせるだろう。消防等の極めて特殊な専門分野の担当は、見える形で目的設定が出来ているが、他の分野は不明瞭であると感じている。「美しい」や「幸せだと感じる」や「暮らしやすい」は人の感情であって、その感情を満たすための具体的なものが出てこない事業目的にならないのではないか。</p>
事務局	<p>総合振興計画上は理想を掲げており、それを達成するための具体的な事業をロジックモデルに落とし込んで取り組み、結果、総合振興計画の目標につながっていくという考え方だ。</p> <p>総合振興計画には市の在り方が記載されている。後期基本計画を策定していく中でいただいた意見も参考にしながら市の目指すべきところを明確にして各課各部局が取り組んでいけるよう進めたい。</p>
委員	<p>先ほどの説明では各委員は当然一人一人の立場で評価意見を提起して、評価結果の点数部分は合議して、ランク付けをした。裏を返せば、個々の委員の意見自体の調整はしていないことになり、報告書の意見番号が付され個々に出ることになった。各担当部署に共創企画課から検討の指示が出され、担当部門から返って来たものが意見に対する行動計画となった。</p> <p>ここで質問であるが、返って来たものは各担当部門の話であって、主語が「担当部門」だ。一方報告書に記載される行動計画の主語は「市」だ。そうになると、全体を調整する共創企画課と各担当部門との合作物としての行動計画はどこで読めばいいのか。</p>
事務局	<p>副委員長長の御指摘のように本来であれば合作物とすべきであるが、正直なところ担当部門が作成したものを市のものとして提示している。</p>
委員	<p>意見に対する行動計画では、施策を担当する主たる部局と関係部局が連携する必要があるが、個々の意見に対して個別に設計していったら大丈夫なのか。大事な意見が寄せられて1件ずつ答えると、行動計画としての方向性が</p>

	<p>複数になってしまう可能性があり、事業を実施する市側も大変かもしれない。</p> <p>そのようなことを考えた時に、行動計画、意見とそれに対応する検討の内容が、今2段構成されているが、もう1つ最後の段を追加して最終的な計画を示した方が動きやすいのかもしれない。これが要検討事項だと思っているが、いかがか。</p>
事務局	<p>外部評価委員の意見に対して担当部局を中心に回答して行動計画を作るという形が確かにある。その中で、企画財政部、共創企画課が行動計画を最後にまとめることができればもう少し担当部局と我々も含めて市全体としての考えが示せたと思う。その辺は御意見を踏まえて今後検討していきたい。</p>
委員長	<p>組織上、企画財政部なり共創企画課が他部局より一段上にあるわけではない。原課として事業を担当しているところが、まずは行動計画を着実に進めていく。その上で、個々の行動計画に書かれた内容が市全体で見た場合、あるいは他部局との関連で見た場合で整合が取れないときは、企画財政部が中心として調整することになるだろう。その後、行動計画通り実施されているかどうかの点検はやはり企画財政部が行わないといけない。全体の枠組みをしっかりとグリップして、こちらにもフィードバックしていただきたい。</p>
事務局	<p>この辺は再三意見をいただいているところであり、我々も何とかすべきと思っている。行動計画を実施した結果を外部評価委員会に報告して、また意見をいただけるようなシステム作りを検討したい。</p>
委員長	<p>その他意見や質問等があるか。</p>
委員一同	<p>なし</p>
企画財政部長	<p>今年度も全8回の外部評価において、市の施策を推進に向け御審議いただき厚く御礼申し上げます。</p> <p>今年度いただいた御意見等を参考に、更に効率的な委員会の運営とできる</p>

よう市としても改善していく。

行政はよく縦割りと言われることも多く、分業という観点で見ると専門性はあるが、委員の皆様からも御指摘いただいたとおり、一つの課題を関連する部局で横連携しながら進めていく必要があると感じている。

複合的な課題は組織横断的に解決していくというところを総合振興計画の基本としており、その辺の実際の運用について外部評価委員会でも見ていただき、御意見をいただく中で良い形にしていきたいと考えている。

現在、市では令和8年度から開始する総合振興計画後期基本計画の策定を進めているところであり、市を取り巻く状況の基礎調査、協働会議（ワークショップ）の開催など、色々な分野で今後目指すべきまちの方向性について議論等を行っている。来年度はその進捗等もお伝えししていく。

委員の皆様においては、来年度も引き続き委員として御協力を賜りたい。今後ともよろしく願います。

4 閉 会